

令和4年度 学校法人明星学園 認定こども園 清泉幼稚園における自己評価報告

【評価結果の表示方法】
 A：十分理解できている B：理解できている C：一部努力が必要 D：努力が必要

《教育課程の編成と実施に関する評価》

項目	点検内容	評価				取組状況について
		A	B	C	D	
保育・教育目標について	(1) 保育・教育目標の具現化に向け、幼児の実態を踏まえた重点目標を設定している。		○			(5)について 全職員が共通理解を図っているかという点、まだ発信力不足の面が見られる。支援員・パート職員まで情報がうまく伝わらない時がある。
	(2) 目標は、園や地域の特色を生かしている。	○				
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映している。		○			
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしている。		○			
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っている。		○			
指導について	(1) 指導計画は幼児の実態に即して作成している。		○			
	(2) 幼稚園教育要領に基づく指導援助が適切に行っている		○			
	(3) 環境の構成を意識した指導方法や課程を常に工夫している。		○			
	(4) 教材、教具を適切に活用している。		○			
	(5) 評価課程を基に、指導の改善に努めている。		○			
教育週数 教	(1) 教育週数を確保している。	○				
	(2) 登園・降園時刻と1日の流れは現行で良い。	○				
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切である。		○			(1)について 保護者アンケートを実施して、行事が多い・少ないという意見があるのが分かった。
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。		○			
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的にしている。		○			
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっている。		○			
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れている		○			

《教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する評価①》

項目	点検内容	評価				取組状況について	
		A	B	C	D		
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっている。		○			
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっている。		○			
		(3) 職員の配置は、適材・適所である。		○			
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切である。		○			
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めている。	○				(1) について 乳児・幼児で合わせる時間が難しく、時間が足りない時がある。
		(2) 教職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく園の運営に関わっている。		○			
		(3) 打ち合わせ回数、時間、内容は適切である。	○				
	学年・学級経営	(1) 学年・学級目標は、保育・教育目標や重点目標に基づいて設定している。	○				(4) について 新型コロナウイルス感染予防の為、クラス毎での活動が多く異年齢での活動が難しかった。
		(2) 学年・学級目標は、幼児の実態に即して設定している。		○			
		(3) 学年・学級目標に迫る短期・長期のねらいは、適切に設定している。	○				
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている。		○			
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育をしている。	○				
		(6) 評価、資料（諸記録）を集積している。	○				
	保健・安全指導	(1) 学年・学級経営に生かされるような具体的保健対策を講じている。	○				
		(2) 避難訓練、交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している。	○				
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っている。		○			
		(4) 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っている。	○				
	開かれた幼稚園づくり	(1) 他校種との年間交流計画は、保育・教育目標や話題に添ったものになっている。		○			
(2) 他校種の幼児児童生徒と触れ合う中で、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っている。			○				
(3) 指導者同士が、打ち合わせや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っている。			○				
(4) 参観や指導に参加するなどして、他校種の教育を理解している。			○				
(5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしている。			○				

《教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する評価②》

項目	点検内容	評価				取組状況について
		A	B	C	D	
開かれた幼稚園づくり 家庭・地域社会との連携	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定している。		○			(1)について コロナの感染症対策として時間を短くしたり、各家庭2名迄と制限していた。
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切である。		○			
	(3) 幼児の興味や関心に基づいて、地域社会・その他の施設と交流している。		○			
	(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れている。		○			
開かれた幼稚園づくり 子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭、保育室等を開放している。		○			(1)について コロナ禍のため、園開放以外に地域に密着に関われてはいなかった。
	(2) 地域に住む子ども同士、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っている。	○				
	(3) 地域の実態を捉え、計画的な預かり保育を行っている。	○				
	(4) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定している。		○			
	(5) 教職員による育児に係る「子育て相談」は充実している。		○			
	(6) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している。	○				
開かれた幼稚園づくり 情報発信	(1) 園だより・学級通信、ホームページ等で園の情報を発信している。	○				
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や他校種に対して周知している。	○				
開かれた幼稚園づくり 外部評価	(1) 園評議員の意見を園運営に反映している。		○			
	(2) 地域や保護者の意見を園運営に反映している。	○				
研究・研修 園内	(1) 研究主題は、保育・教育目標の具現化につながるものである。		○			
	(2) 園内研修の計画・運営は適切である。		○			
	(3) 研究の成果を日常の保育に生かし、幼児の育ちに反映させている。		○			
	(4) 研究の実践による幼児理解が深まりを見せている。		○			
研究・研修 園外	(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加姿勢の充実を図っている。	○				
	(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元している。		○			

《教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する評価③》

項目	点検内容	評価				取組状況について
		A	B	C	D	
情報について	(1) 幼児や保護者に関する個人情報を適正に扱っている。	○				
	(2) 公文書収受、発送、処理を適切に行っている。	○				
	(3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理をしている。	○				
施設・設備	(1) 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っている。	○				
	(2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管している。		○			
	(3) 不審者等に対応する周到的配慮を行っている。		○			
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。		○			
出納経	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理している。	○				

《今年度における全体的な所見・評価》

保育・教育目標については、個々の成長に合わせ無理なくカリキュラムを組んでいた。また、気になる子についても職員間で情報を共有し成長を見守っていた。保育についてはニュース等で保育士の虐待やハスの置き去りについても安全管理を徹底し、お互い気をつけるように意識していた。行事についてはコロナ禍ではあったが、感染対策を講じながらまた、保護者の意見も取り入れながら行うことが出来た。情報発信の部分では、保護者から遅いとの指摘もあったので今後見直していきたい。コロナが緩和されれば、地域との交流や園開放なども積極的に行っていきたい。

令和4年度 学校法人明星学園 認定こども園 清泉幼稚園における自己評価報告

《1.本園の教育目標》

【幼児の創造性を育て、健康で心豊かな人間形成の教育】

- ◎よく遊び、よく学ぶ
- ◎個性と自主性を育てる
- ◎創造の芽生えと豊かな情操
- ◎友達関係の深まりから社会性を育てる

《2.令和4年度の重点的に取り組む目標・計画》

幼稚園教育要項の改訂を踏まえ、教職員一同、子ども達ひとりひとりの「個性」を伸ばし、成長しようとする心のサポートを大切に、各学年の年齢や能力に応じたさまざまな活動の機会を与え、仲間との触れ合いや環境を活かした自然との触れ合いの中で健全な成長・発達を促せるようにする。

《3.評価項目の達成及び取組状況》

【評価結果の表示方法】

- A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが、成果が十分ではない
D：取り組みが不十分である

評価項目	評価	取組状況について
幼児教育の理念や子どもの実態に適した教育課程に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	コロナ禍だったため各クラスの活動が多かったが、戸外では異年齢で関わったり、3月はコロナの緩和もあり園児全体で活動を楽しむことが出来た。
幼稚園教育要項に基づいた指導方法及び幼児への対応	B	職員間で情報を共有しながら、個々にあった保育をしていた。年々子どもたちの幼さも見られるので指導計画を見直しながら指導計画を立てていた。
幼稚園の流れおよび教育週数	A	1日の流れは学年ごとにカリキュラムがたてられておりスムーズに園生活を遅れていると感じる。見通しを持って活動が出来ていた。コロナ禍で感染者はいたが教育週数に師匠はなかった。
行事計画の実施・実態について	B	年間行事を見直し、保護者の意見を取り入れながら、清泉祭り、もちつき、参観日等の行事を短時間だが行うことが出来た。今年は保護者アンケートを行ったのでその意見を次年度に反映させていきたい。
運営・学級経営・組織・体制について	A	今年度も、産休等で途中退職する職員がいた為、職員不足で保育体制が整わないことがあった。また職員不足から、会議の時間を取るのが難しい時があった。

《3.評価項目の達成及び取組状況》

【評価結果の表示方法】

A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが、成果が十分ではない
D：取り組みが不十分である

評価項目	評価	取組状況について
園内研修・園外研修	B	コロナ禍であったが、道南ブロック大会では公開保育担当園であった為、職員同士で話し合い目標を1つに積極的に取り組むことが出来た。キャリアアップ研修も4項目取れた職員も多い。だが園内研修についてはあまり出来なかったため今後の課題にした。
子育て支援・地域との繋がり・情報発信	B	ホームページや園だより、ブログ・クラスだより等で幼稚園の様子を発信していた。幼稚園開放では季節に合わせた遊びを設定し、地域の親子が参加できるようにした。保護者アンケートでは情報発信が遅いとの指摘もあったのでこれからの課題にしてい
個人情報等の管理	A	個人情報の管理を徹底するように職員間で共通理解している。幼児指導要録の作成についても適切な時間、方法で作成出来ている。
園舎・園庭の安全管理	B	園庭の遊具等の点検は月1回定期的に行っている。怪我などがあればその都度確認して改善に務めた。室内遊具は年齢に応じて、設置していた。固定遊具には必ず職員がつくようにし、安全に考慮していた。
他校種との交流	B	小学校との繋がりを大切に情報交換や、引き継ぎなどの取り組みを行っていた。道の駅へ七夕やクリスマスの飾り等で積極的に取り入れる事でコロナ禍でも少しでも地域との関わりを持つことが出来た。今年は職員だけだが、ユネスコフォーラムに参加出来た。

《4.総合的な評価結果》

評価	結果理由
B	各年齢に応じた教育・保育内容に適したより具体的な環境構成を整えるようにする。コロナ禍でも行事を見直しコロナの感染対策を講じながら行った。今後も今後コロナ感染の様子を見ながら行事の見直しをしていきたい。キャリアアップ研修では皆で同じ研修を受けることで共通理解するとともに自分たちの保育を見直すことができ、職員の資質向上に繋がった。

《5.今後の取り組む課題》

課 題	具体的な取り組み方法
コロナ禍で安全に子どもたちの教育環境を整え遊びの体制を整える。	コロナウイルス対策を考えながら、保育環境を整えていたが、今後はコロナが第5類になることで様子を見ながらコロナ前の活動に少しずつ戻していきたい。
各年齢に合わせた環境構成を整える。	各年齢に応じた教育・保育内容に適したより具体的な環境構成を整えるようにする。引き続き、外遊びの工夫を考える必要がある。

《6.学校関係者の評価》

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

《7.財務状況》

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。